

〔曲名〕 Danse Bijoux

Menuet de Cendrillon,

Helene Gavotte,

Giga,

Valse lente,

Mazurka des Hirondelles op. 229

宝玉の舞曲 作品229番

〔曲種〕

〔作曲者〕 Calro Munier

カルロ・ムニエル

〔編曲者〕

Menuet de Cendrillon(センドリヨンのメヌエット)

Helene-Gavotte (エレーヌ・ガボット)

Giga(ジーガ) Valse lente (緩やかなワルツ)

Mazurka des Hirondelles (燕のマズルカ)

の五つの舞曲からなり、1910年フィレンツェのフォルリヴェージから出版された。

編成は第一第二マンドリン、マントラ、リキュート、ギターから成りマンドリン音楽の擁護者ミラフィオリのガストン伯爵に捧げられた。

ムニエルは述懐の中でこのガストン伯爵に負うところ大であったと云っているが、

特に1908年10月6日にソンマリヴァ・ペルノ王城で、

時のイタリア国王エマヌエル三世の御前演奏を行い握手を給わったことを光栄にしている。

其他名手ルイジ・ビアキ、エンリコ・マルチェリ等多くのマンドリニストは大なり小なり庇護を受けた

人で、

ガストン伯鷺はマルゲリータ皇后と共にマンドリン音楽の最大の擁護者として知られている。

従って多くの作曲家が作品を献上しているが本曲もその一つで、ムニエルはこの外にもガストンと名付けたワルツも献上している。

本曲はムニエルのマンドリン合奏曲の代表的な作品であるがこのうちIのメヌエットとIIのガボットはマンドリンとギター二部合奏曲として1897年トリノーのイル・マンドリーノから出版を見たもので両曲を併せて作品181番としていたものである。

比較してみると第二マンドリン、マンドラが独創的に書き加えられ、旋律和音は殆んど変わっていない。メヌエットで一小節、ガボットで二長調に現われる旋律のリズムが稍改められ、センドリヨンともエレヌとも命名されていない。

猶IIIの緩やかなワルツも1904年マンドリンギター二重奏曲としてマルセイユのル・プレクトルで出版を見たもので、

之等に新たにジーガと燕のマヅルカが加えられて宝玉の舞曲としてまとめられた。

本邦では1918年(大正七年)シンフォニア・マンドリニ・オルケストラ(オルケストラ・シンフォニカ・タケキの前身)で上演され

Iのメヌエットは鬼女のメヌエットと訳されている。

エレヌはギリシャ神話でゼウスとレダの娘、ギリシャ第一の美女として伝えられているが又女性名にも多い。

曲名には人名、地名を冠するものが多いが作者にゆかりのある女性名と解したい。

I, IIは典雅、IVのワルツはむしろロマン風ワルツが適わしい。

燕もよく題材にされるもので月や星に次いでいる。

跳躍する旋律はそれを模したものであろう。

1970年2月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第4集より